

いい だか だん りん  
第27回 飯高檀林コンサート

プログラム

しか とおね  
鹿の遠音  
えてんらく じよ きやく  
越天楽による「序の曲」

つがる こもりうた  
津軽子守唄

まる ひづめ くりげ うま  
丸い蹄の栗毛の馬

あきた ま ごうた  
秋田馬子唄

チェチェグ ノーリン フバンドウ

—— 休憩 ——

にしもないほんあど  
国指定重要無形 西馬音内盆踊り  
民俗文化財

つがる ぶし  
津軽じょんから節

せいちょうかりほしきりうた  
正調刈干切唄

うしぶか ぶし  
牛深ハイヤ節

ひとりぼっちで悲しいなんて

♪ みんなで歌おう♪ 里の秋

くじゅうく りたいりょうき やりうた  
九十九里大漁木遣唄

※プログラムに一部変更のある場合があります。

主催／飯高檀林コンサート実行委員会・匝瑳市・匝瑳市教育委員会

協賛／学校法人立正大学学園

後援／千葉県・千葉県教育委員会・公益財団法人日本民謡協会

いいだか だんりん  
**第27回飯高檀林コンサート**

みね まお  
**三音麻央** MINE MAO



【民謡歌手】

埼玉県出身。平成3年生まれ。父は津軽三味線奏者・澤田勝仁、母はピクチャー専属歌手・曾我了子、祖父は鳴り物美鵬流家元・美鵬駒三朗。津軽民謡は成田雲竹女師に師事。大和楽は大和久満師に師事。日本舞踊は飛鳥左近師に師事。

テレビCMボイスにて出演（ハナマルキ、エステーなど）。NHKそれいけ民謡うた祭り、日本の民謡などにも出演。

（公益財団法人）日本民謡協会少年少女グループの指導講師補佐としても活動している。

さとう りか  
**佐藤理加** SATO RIKA



【民謡歌手】

東京都出身。民謡一家に生まれ、民謡に包まれた中で育ち、3歳で初舞台。民謡は勿論、ボイスやボーカルなどでも様々なメディアや教育教材など多方面で活躍中。

公式ポケモン「ヤドン音頭」、劇団俳優座公演「北へんろ」

CM：「おーいお茶」・「サトウのご飯」など。

やま なか ひろし  
**山中裕史** YAMANAKA HIROSHI



【三味線奏者】

1989年生まれ。埼玉県出身。両祖父母の代から民謡を始め、父は津軽三味線奏者、母が民謡歌手という民謡一家に生まれ幼少の頃より芸事に勤しむ。三味線の世界では珍しく二種類の三味線を使いこなし、津軽三味線は澤田壽仁、細三味線は笹本寿浩としても活動している。その類稀な才能を活かし、2017年、津軽三味線発祥の地、金木町にて行われる全国大会で優勝。最高位「仁太坊賞」を受賞。2019年、東京で行われる「第22回津軽三味線コンクール全国大会」にて優勝。最高峰の大会で二冠を達成。T.V・ラジオはもちろん、その他jazz・J-pops・演歌歌手との共演・学校公演・学校教材など多方面に渡り活躍し海外公演なども数多く行う。唄・和太鼓奏者としても活躍し、数々の賞を受賞し、その多彩な芸で観客を魅了している。

ささき そうざん  
**佐々木 涼山** SASAKI SOZAN



【尺八・篠笛奏者】

宮城県生まれのため民謡を耳にしていたが、尺八に興味を持ち1973年、都山（とざん）流尺八を今瀬苔山（たいざん）に師事。

1979年、日本コロムビアにて民謡尺八を多数吹き込み、以後、民謡以外に演歌、新吟詠、大和楽等吹き込み。1981年、新都山流東京師範試験に首席登第。2000年、NHK民謡番組レギュラー伴奏者となる。（公益財団法人）日本民謡協会全国大会伴奏者。（一般社団法人）日本民謡プロ協会会員。

きくち こうざん  
**菊地河山** KIKUCHI KOZAN



【尺八・篠笛奏者】

福島県出身で、幼少時に民謡指導者の母により三味線の手解きを受け、中学生頃より尺八を始める。2002年東京芸術大付属高校尺八専攻に入学。以来、人間国宝山本邦山に師事。

2009年、同大邦楽科尺八専攻卒業。2010年、NHK邦楽技能者育成会第55期終了。

2011年、都山流師範試験首席登第、河山を号す。以後、各種海外公演を始めNHK民謡番組や国立劇場での三曲合奏、国内外での演奏やレコーディング活動をしている。

（公益財団法人）日本民謡協会会員。

（公益財団法人）日本三曲協会会員。

（一般社団法人）日本民謡プロ協会会員。

さとう きんりょう  
**佐藤錦亮** SATO KINRYO



【尺八・篠笛奏者】

1995年生まれ。千葉県出身。

物心ついた頃より民謡に触れ、幼少のころより舞台上に立つ。

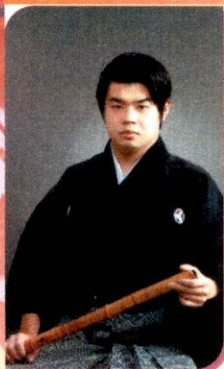
9歳で尺八を始め、2007年より二世佐藤錦水師に師事。

2018年、「佐藤錦亮」の号を許され、錦水流師範となる。

2021年、東京工業大学修士課程修了。現在は化学の研究と並行して民謡伴奏を中心としたプロ演奏活動を行う。

# 出演者プロフィール

## 今井 祐介 IMAI YUSUKE



【尺八・篠笛奏者】

岡山県出身で、中学生頃より尺八を始める。第12回全国高校生邦楽コンクールから第14回まで3年連続入賞し、第14回は最優秀賞を受賞。以後、横山勝也高弟の古屋輝夫に師事。NHK邦楽技能者育成会第53期卒業。NHK邦楽オーディション合格6回。尺八古典本曲を始め、現代邦楽その他、様々なジャンルの音楽家との共演多数。

## 佐藤 公基 SATO KOKI



【尺八・篠笛奏者】

1992年9月17日生まれ、東京都出身。民謡一家の長男として生まれ、幼少の頃より家族に手解きを受け、舞台活動を始める。2000年、少年少女民謡大会において優勝。2008年より善養寺恵介師に師事。2011年、東京芸術大学音楽学部邦楽科尺八専攻に入学。2015年同大卒業。民謡、古典、J-pops、TV、サントラ、ラジオ、学校公演など多方面にわたり演奏・CD制作に参加。ジャンルを問わずライブ、コンサート、劇中音楽等に幅広く参加。尺八に対する先入観、固定観念に縛られる事なく「らしさ」を追求しながら、民謡で培ってきた「うた心」を大切に演奏している。

## 有原文 嘉 ARIHARA FUMIKA



【踊り】

幼少の頃「西馬音内（にしもない）盆踊り」の寄せ太鼓に高揚し、踊りの輪に入り大人達の後ろに付いて、手振り足運びを真似て体得する。踊りの上達段階に合わせた衣装（藍染浴衣、端縫い衣装、彦さ頭巾、編み笠）と、独特な間を大切にして踊り、各所の要請にも応じている。

## 美鵬 成る公 BIHO NARUTOMO



【鳴り物奏者】

東京都出身。尺八奏者二世佐藤錦水、和太鼓奏者美鵬成る駒という父・母を持ち、祖母は民謡大家・佐藤美恵子、祖父は美鵬流家元・美鵬駒三朗と民謡一族の環境に育つ。

## オットホンバイラ OTTOHONBAIRA



特別出演  
【モンゴル民謡歌手】

中国内モンゴル・バインノール盟草原生まれ。1994年来日。1996年から「姫神」のアルバム『風の縄文』にボーカルで参加。以後国内外ツアーにも加わる。2001年、在日留学生音楽コンクール優秀賞受賞。（公益財団法人）日本民謡協会主催の大会に数多く出演。2004年、初アルバム「草原の風」リリース。現在はモンゴルを始め様々な演奏家と共演している。

本日は第27回飯高檀林コンサートにご来場いただき誠にありがとうございます。

- \* お出かけ前の、検温など体調管理、また、来場の際、受付にて検温と消毒のご協力、ありがとうございます。
- \* 会場内では、必ずマスクを着用ください。
- \* 会場内では、黙聴をお願いします。
- \* 受付時にご記入いただきました個人情報は、状況に応じて保健所等の公的機関に提供する場合がありますので、あらかじめご了承ください。
- \* コンサート中ご気分が悪くなられましたら、すみやかに係の者にお知らせください。
- \* コンサート中は、携帯電話の電源はお切りください。お願いしますよう、ご協力お願いいたします。

# ひとりぼっちでかなしいなんて

片岡繁男：作詞／福田和禾子：作曲

- ひとりぼっちで かなしいなんて みみずく爺さん 両耳立てて  
じっと見守り 待っててくれる もりの広場で 爺さん呼べば  
ごろすけホッポー ごろすけホッポー こたえてくれる いつも優しく迎えてくれる
- ひとりぼっちで かなしいなんて みみずく爺さん 緑のマント  
パイプくわえて 待っててくれる ほら白い雲 パイプのけむり  
ごろすけホッポー ごろすけホッポー ひろがるあいず 小鳥も蝶も みんな仲間さ
- ひとりぼっちで かなしいなんて みみずく爺さん 白ひげ爺さん  
椎のこずえで 待っててくれる ほらきらきらと こずえがひかる  
ごろすけホッポー ごろすけホッポー ひげなびかせて 木の実どっさり 落としてくれる

# 里の秋

斎藤信夫：作詞／海沼実：作曲

- 静かな静かな 里の秋 お背戸に木の實の 落ちる夜は  
ああ 母さんとただ二人  
栗の實 煮てます いろりばた
- 明るい明るい 星の空 鳴き鳴き夜鴨の 渡る夜は  
ああ 父さんのあの笑顔  
栗の實 食べては 思い出す
- さよならさよなら 椰子の島  
お舟にゆられて 帰られる  
ああ 父さんよ御無事でと  
今夜も 母さんと 祈ります



「里の秋」の作詩者は、千葉県成東町（現：山武市）の出身で、従軍中、父を思つて書かれたものといわれています。風土を背景に、やさしい詩情とさわやかな夢があふれている作品です。

## ご挨拶

今年で第27回を迎える「飯高檀林コンサート」の開催にあたって、ご挨拶を申し上げます。

その淵源を「飯高檀林」に求める立正大学は、「人間・社会・地球に関わる総合大学」を標榜し、多様性を育む学修環境の充実と創造的な研究活動の高度化を目指しています。

いまの大学生に強く求められるのは「グローバル化やデジタル化時代をしっかりと生き抜くための深く広い教養、高度な専門性、そして豊かな語学力と異文化対応力」です。深く広い教養は、本日のコンサートのような場面を経験することで身につけてゆくと考えています。異文化対応力の基礎をはぐくむのも、教養と経験です。

このような歴史と伝統に彩られた閑静の地で、立正大学とのご縁を深める飯高檀林コンサートが開催されますことをお祝い申し上げますとともに、主催の「飯高檀林コンサート実行委員会」の皆様の熱情と努力に対して心からの敬意を表する次第です。

立正大学長 寺尾 英智

Congratulations on the 27th anniversary concert.

lidaka Danrin, the origin of Rissho University was established in 1580 as an educational institution for priests of Nichiren Buddhism. At Rissho University, our vision is to cultivate students that have both high moral standards and deep expertise, with "a comprehensive university engaged with people, society and the Earth" as our slogan. To this end, we are advancing and deepening creative research activities that encourage diversity.

We can also cultivate education through the experience of today's concert, I think.

I believe that education and experience will develop the foundation for cross-cultural competence.

I really want to express my heartfelt congratulations on the 27th anniversary concert and show respect to the efforts of the executive committee of lidaka Danrin Concert.

President of Rissho University Eichi Terao